

私たちは常に願い、希望を持って生きて行こうとします。前向きに生きていくことを良しとする社会です。そして、常に成長し続けることを求められます。目標を達成したらすぐに次の目標へ…。時に他者を追い抜いてでも目標を達成しようとする…。そして目標が達成できなかつたりついて行けなくなったら、悩み、身体を壊してしまう場合もある…。尽きることのない、満足する事のない苦しみの生き方になってしまいます。自分の意思に反して身体と心が思い通りにならない苦しみ。この世の中はいかに生き辛いのか…。

苦しみの「苦」とは、“思うようにならない事”、“欲するようにならない事”などという意味です。

お釈迦さまは、生まれてから、老いて、病になり、亡くなること、すなわち「生・老・病・死」を、人間の根源的な苦しみ、思い通りにならない事として、四つの苦、「四苦」と呼びました。

そして、生活をしていく中で思うようにならない事として、次の四つを「苦」としました。

愛する者と死別をしたり、生き別れるという苦しみである「愛別離苦」。

会いたくない人とも会わなくてはならないという苦しみ「怨憎会苦」。

求めても満たされないという苦しみ「求不得苦」。

自分の意思に反して身体と心が思い通りにならないという苦しみ「五蘊盛苦」。

お釈迦さまが苦しみを分類された「生・老・病・死」、「愛別離苦・怨憎会苦・求不得苦・五蘊盛苦」を「四苦八苦」といいます。非常に苦勞することを「四苦八苦する」といいますが、語源はここから来ているのです。

お釈迦さまは、人間の根源的な苦しみと、身体的、精神的な営み、存在すべてが思い通りにならないもの、つまり「苦」であるとしました。これを「一切皆苦」といいます。

世の中は常に移ろい変化し続けており、すべてのものには実体が無いので、“私”や“私のもの”など本来は無いのですが、その真理を理解せずに執着をし、右往左往して迷い「四苦八苦」しているのが私たちの現状なのです。

そんな中で、お釈迦さまの教えは、その「一切皆苦」に生きる人間の道を示しているといえるのです。